

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。昨年は蔵の工事が済み、本堂前に飾る幕

が新調され、表千家の長生会全国大会を無事終わらせることができ、当初の目標を何とか成功裏に終わらせることができた一年だったと思います。右の写真は副住職の部屋を作る予定地ですが、このまま一年半が経過してしまいました。工事が進まないのを不審に思われている方もいらっしゃると思います。その経過ですがこの土地の公図に青線（水路）が残っていて、工事の許可が下りないでいます。そのため工事を始められません。現在水路はなく、水も流れていません。行政もそれを認めて、近々水路の買い上げということで落着くところまでこぎつけています。今年には工事が完成すると思います。



本堂の耐震化工事ですが、現在震度6近くまでの地震に耐えられる構造であることがわかりました。床下の木組みに三角形の振動吸収のダンパーを入れることで、震度7近くの地震に耐えられる建物になることまで、建築事務所に調べてもらえました。工事費は1000万円程という試算も出してもらっています。総代会でも検討していただき、檀家の皆さんにとって負担にならない方法をと考えています。この件を検討することを本年の重要事項としたいと思います。

本年も檀信徒の皆様のご協力をいただきながら全久院の事業を進めていきたいと存じます。本年もよろしくお願いいたします。

全久院の集い

坐禅会 ・ ・ 「嚴陽一物（ごんよういちもつ）」 ・ ・

座禅会では「従容録」を勉強しています。現在は第57則まで勉強を進めてきました。この則は趙州（じょうしゅう）の弟子嚴陽尊者が「一物不将来の時如何（いちもつふしょうらいのときいかん）」と質問したところの、師弟の問答を取り上げています

「私は修業を重ね、悟りを開こうと思うことさえ捨て去ることができました。師匠はどうお考えですか」と嚴陽尊者が問うと、趙州は「放下著（ほうげじゃく）それを捨てなさい」と答えました。仏道修行にあたってその目標である悟りたいという分別さえ捨てることができる境地にまで達したのに、さらに捨てろ、と師匠は答えたのです。嚴陽は「一物不将来この何をか放下せん」と切り返しました。悟りを求めようという分別まで捨てているのに、もう何物も持っていないのに、これ以上何を捨てろというのか、と問うたのです。すると趙州は「恁麼ならば担取し去れ（いんもならば たんしゅしされ）」そんなに惜しいものならば荷なって行きなさい、と答えると嚴陽は重荷が取れてその真意を知ることができた、という問答です。

禅問答の中でも最も典型的な問答だと思います。禅では頭で考えることを「分別」と言います。この分別が禅を組む時最後までくっ付いてくるものです。「悟りに至る」「修業をする」「仏に成る」

という文字が頭にこびり付き、元々仏である己を覆い隠してしまいます。悟ろうとする己を捨てるのが修行で一番難しいことです。道元禅師が「身心脱落」と説いたのはこの処です。

この教えを私たちの日常生活の中にどう活かせるのでしょうか。例えば農家を考えてみましょう。何年も何年も作物を作る作業をしてきました。毎年良い作物を作ろうと研究し、作業の内容を改良しながら働いています。ここで「考えることや努力することを止めろ」と趙州は言うわけです。考えつくし、作業することを全て体にしみこませ、分別しないで身体が勝手に動くところまで努力なさい。無意識にそして自由自在に身体が動いたたら、素晴らしい作物ができますよ、と教えているのではないのでしょうか。

最近の人気映画「スターウォーズ」は東洋の精神を「フォース」という言葉に置き換えています。鍛錬や稽古を積み重ねて、最後に無意識になって出てくる力「フォース」が「一物不将来」や「放下著」という言葉にあたると思います。

観音講 観音講は十月小旅行をしています。今年も奈川村の蕎麦を堪能しました。10月23日観音講・ご詠歌の会・歌の会・リラの会の皆さんとお迎えのバスに乗って奈川村に向かいました。今年は大変紅葉がきれいで、鮮やかな紅葉に目が癒されました。奈川村は自前の蕎麦粉や、とおじ蕎麦で有名です。今年はキノコの不作が伝えられていましたが、とおじ蕎麦にたくさんのマツタケが入っており感動しました。日ごろ付き合いのない会の合同の小旅行でしたが、蕎麦をほお張りながらワイワイと交流も進みました。マツタケの香りに包まれながら、ゆったりと秋の一日を過ごすことができました。



ご詠歌の会 右の写真は全久院の新年会の時、ご詠歌をお唱えしてくださったご詠歌の会の皆さんです。青色のご詠歌の服を「梅花服」と呼んでいますが、お唱えの作法として着るものです。また皆さんが手にしているのは鈴で、水色の房が付いています。梅花には檀信徒の皆さん用に8つの教階が決められており、課題曲を稽古しながら、検定を受けて、資格を取っていきます。水色の房は教階の証になります。



施食会 恒例の法要を8月5日に行いました。10時半頃には檀信徒の皆さんが集まり始め、総代の皆様の受付を済ませていただき、しばし本堂で涼んでいただきました。12時からお寺伝統のお弁当、12時半から講演。SVAのカンボジア担当と言ったら「鎌倉さん」と言われるほど素晴らしい活動をされた方のお話を聞きました。カンボジアでの経験の、東日本大震災の被災地域でも発揮して、移動図書館を通じて被災された方々の心のサポートをした体験を



話していただきました。海外での救援と日本国内での救援に違いがあるわけではありません。同じ目線で隣に寄り添うことの大切さ、その難しさを話していただきました。

総代会 総代会では会費の積み立てをして懇親を深め、リフレッシュしていただくために、定期的に旅行を企画していました。最近は皆さんの都合が合わず旅行ができませんでした。そこで市内の懐石料理屋で腕を振るわれた武田さんに来ていただき、茶懐石を体験していただく企画をしました。総代の奥様にも参加していただきました。

写真は8寸の檜の生地のお盆に、山と海の珍味を盛りつけ、それをお互いに取り分けながら、お銚子でお酒を差しつ差されつする、茶懐石独特の作法「千鳥の杯」を体験しながら、味わっていただいているところです。「京懐石」というと高級料理といわれますが、その前に作法を知らないといくくり楽しめない。「大変難しい料理」です。茶道ではこの「京懐石」の作法を覚えることも稽古の大切な部分となっています。おいしいものを食べるのも大変です。



茶道コーナー

同門会全国大会福山大会

毎年、春と秋の2回表千家では全国大会があり、各地でその土地独特の茶会が開かれます。今回は広島県福山市と尾道市での開催でした。写真に「備後大会」とありますが、この地域は独特の歴史と地域柄がありました。どこの県に行っても一つの県に一つの支部があるのですが、広島県には「広島県支部」と「備後支部」があります。何か歴史と、地域住民のこだわりを感じませんか。

茶会で備後支部の支部長をお勤めの「中村氏」のお話を伺いました。この方は造船業を営み、一人でこの看板にある「神勝寺」と「福山八幡宮」を建てられた方だそうです。茶道具もすごいもので、初代の楽から現代の15代楽までのすべての茶碗を所有して、「ふくやま美術館」を建て個人で所蔵する茶道具を寄付された方だそうです。凄い人がいたものです。

その歴史も話していただきました。備後の瀬戸内海に面する地域は九州側と紀伊側の間に位置して、満ち潮の時は備後で潮がぶつかり、引き潮の時は備後から引いてゆく地点だとのこと。エンジンのない時代は満ち潮に乗り九州や紀伊から備後まで来て、引き潮に乗り帰るという交通と貿易の中心地になっていたそうです。ここに大富豪が誕生したのでしょう。茶道をとおして様々なことを学んでいます。



名古屋 棚橋さんの茶事 右の写真の左側の男性が棚橋さんです。堀内宗匠の内弟子となって、厳しい稽古をされこの度「十徳（宗匠の位を持つ方に許される特殊な着物）」を許され、その



披露の席に呼んでいただきました。全久院の稽古仲間3人と茶事の形式の披露の席を用意され、正式な茶事を堪能してきました。

長生会長野大会 昨年度全久院にとっては最大の模様しものでした。長生会は表千家の堀内宗完宗匠の全国組織で、先代の時代から長野県の代表を務めています。全国から450人程のお客様をお迎えして、松本市内に濃茶席2席（全久院、護国神社）、薄茶席3席（深志神社に2席、護国神社）、呈茶席（市民芸術館オープンスタジオ）など6席で一服さし上げました。



10月17日（火）の夕方ホテル・ブエナビスタで宗匠を囲みレセプションを開き、18日は9時から45分刻みで茶席を運営し、お客様はブエナビスタと護国神社と技術館の3か所を回るシャトルバスを利用して茶席を回っていただきました。全久院と深志神社と芸術館は歩きで曲がり角にはアルバイトをお願いして案内をしてもらいました。昼食はブエナビスタで、宿泊は駅周辺のホテルをお願いしました。



前日まで県内に住む先生方に詳細な計画を組み、連絡調整を繰り返し替えたので、10月は自分の人生の中で最も多忙を極めた月となりました。しかもお寺の仕事は待ったなしですから、時間の使い方を極限まで研ぎ澄ませて、神経をすり減らすという感覚を始めて味わいました。今年なるべく早い時期に会計を終わらせたいと思っています。

法要の会場は是非お寺をお使いください

このコラムを掲載して数年になります。檀家の皆様にもご理解いただき寺での法事

や葬儀が増えてきました。しかし、時代の流れは激変しています。松本市でも宗教性を廃し、埋骨の場所はお参りできず、慰霊碑でのお参りのみという樹木葬の敷地を中山霊園に作りました。いよいよ松本も人と人の繋がりを全く閉ざした形での埋骨のみの葬儀が始まりました。身内やお世話になった人々ときちんと送る儀式をしないで、故人の一生を投げ捨ててしまうような送り方をもう一度考え直す時に来ていると思います。

また、葬儀にかかる費用も考えなくてはならないと思います。知らずに業者に任せて、請求書を見てびっくり！という話を何度も聞いています。寺とホールの葬儀費用を比較してみます。たとえば100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、ホールを使う業者ではお参りの人一人当たり25000円かかるという計算をしているようです。100人の会葬者があるとする、 $100人 \times 25000円 = 250万円$ 。寺を使えば一人当たり10000円ほどですので、 $100人 \times 10000円 = 100万円$ 。差し引き150万円の差が出ます。大変な差が出ると思いませんか？

寺を使うと人手がかかって大変ではないか？とお考えかもしれませんが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部「ことの葉」（電話32-8722）か、メモリアルライフ信州（電

話４０－７７４５）へ電話するだけです。後の手続きはみな業者がやってくれます。業者も対応の仕方が慣れてきて、心配りが大変嬉しかったとの声も聞いております。

葬儀や法事は宗教的な儀式を通じて、悲しみや心の乱れを整え、亡くなられた方の分まで生きようという力にかえる過程と思います。その場は寺がふさわしいと思います。ピーンと張った空気や静けさ、木や土や畳で作り出される空間で人は癒されると思います。様々な事情で仕方のない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていただきたいと思います。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非ご一考ください。いざという時では時間に追われ、後で後悔というようにもなりかねません。自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。

りらの会にご協力ください 寺での法要の手伝いをしていただいているグループ「りらの会」の紹介は以前からしていますので、皆様もご存知のことと思います。檀家の皆様からも手伝いの依頼をいただくようになりました。現在は１０人ほどで、週一回金曜日の掃除、随時依頼される法要の手伝いをしていただいています。依頼が多くなり人数が足りなくなっています。檀家の皆様にもぜひ会員として登録いただき、お手伝いいただきたいと思います。お手伝いには、１時間１０００円ほどのお礼を差し上げていますが、そのうちりら会に運営費を若干納めていただいています。是非多くの方に仲間になっていただき、お寺の手伝いをお願いできたらと思います。「人のお手伝いをさせていただける分、させていただいている自分のほうが心豊かになっているように感じます」と会員の方から言われ本当にうれしく思っています。皆様のご参加ぜひご参加お願いいたします。

住職の活動

絵本を東南アジアの国々へ贈ります、お手伝い募集！

SVAは東南アジアの国々へ絵本を贈っています。日本語の絵本に現地語の翻訳文を糊付けして贈るのですが、その糊付けを日本国内の学校や寺院などのボランティアを募って、作業をしてもらっています。その糊付けが正確にできているかを検査する作業を全久院でしています。今回



はその絵本を送る先のビルマ SVA 事務所の所長中原さんをお呼びしてビルマの現状をお話いただきました。



軍事政権下での民衆の苦しみ、少数民族の虐待とゲリラ戦、という過酷な時を超え、アウンサン・スーチー氏を中心に果たした民主化の流れを説明していただきました。またその期間に崩壊した教育を次第に復興し、仏教寺院が率先して寺院内に無料の小学校を建設し、運営している。そこにこの絵本が送られ子供たちの学ば意欲を高めていることなど話していただきました。

話の中で印象に残ったことがあります。今問題になっている「少数民族ロヒンギャ」難民問題です。国連や欧米の団体はスーチー氏がこの問題を人道的に解決しようとしないと非難していますが、その非難は正当なのでしょうか。

第二次大戦後この地域に進出しようとしたヨーロッパ諸国は、団結し独立しようとした人口の7割を占める仏教徒のビルマ族を抑えるために、少数民族を優遇し、キリスト教やイスラム教に改宗させ、警察や軍人にして裕福な生活をさせビルマ族を取り締まらせたのです。非情極まる取り締まりにビルマ族の方々は心に深い傷をおいました。民族対立を利用して勢力を拡大しようとした先進諸国の政策の非を正さずには、スーチー氏を非難することができるでしょうか。ただ難民に対して「人道援助」することは真の意味での解決にはならないと考えます。

様々な問題を抱えるビルマですが、次の世代を担う子供たちが絵本を通して教育に関心を持ち、自分で自分の立ち位置を見極める力をつけることが大切と考えます。ぜひ絵本の作業をお手伝いください。右が作業日です。

昼の部	夜の部
13時～16時 (木曜日)	19時～21時 (火曜日)
1月	9日
11日	16日(昼夜共に)
19日(金、昼夜共に)	

大黒コーナー

ヴェルディ作曲オペラ『第一次十字軍のロンバルディア人』公演

2017年11月25日、26日キッセイ文化ホール大ホールにて、オペラを楽しむ会第6回公演オペラ「第1回十字軍のロンバルディア人」の公演が行われました。初日は236人、二日目は609人のお客様を動員でき、計845人のお客様がオペラを鑑賞して下さり大成功でした。また、出演者、裏方の総勢130名が楽しい時を持てたと喜んでくださいました。このような会に育ってきたということは私にとってとても嬉しく光栄なことでした。日本教育公務員弘済会長野支部、松本芸術文化協会、その他協賛をいただき、成功にこぎつけることができました。



思い起こせば去年の5月、前回の公演の「仮面舞踏会」が終わった時に、自分たちのやりたいもの等メンバーに聞きましたが、指揮者の澤木先生に相談しましたところ、全然聞いたことのない演目のこのオペラを推薦してくださいました。「前回のメンバーがそれぞれ生かされてみんなで創っていけるオペラ」と言われたのです。

ソリストも合唱も毎月2日間で約1年半の稽古になります。合唱については、体を使い響く声を出せる方法、イタ

リア語の発音、意味、ニュアンスを伝えどう表現していくのかを訓練しました。今までで一番量が多く、歌いあげる曲と、喋る要素の多い曲等含めて、たくさんの歌詞を覚えるべく皆さんしっかり頑張ってくださいました。歌詞をひたすら呪文のごとく覚える日々だったと思いますが、体の動きを含め表現も板について来て、皆さん歌も演技も洗練されて来ました。

オーケストラについては、前回よりもさらに演奏者が増え、ハープ以外は複数ずつ揃い、またティンパニーに打楽器群が加わり迫力が出ました。メンバーどお



しの紹介で一人また一人と集まってくださいました。忘れもしない2回目のオケ合わせ！！あがたの森の教室に総勢100人のうち約60人が集まり心を一つにして音楽を奏でました。繊細な響きから、打楽器群の入った大迫力の音に鳥肌が立ったという演奏者までいました。ほかの教室から見学者が現れました。すごい曲です。全部で4回のオケ合わせの稽古で、細かいニュアンスを練ることができました。オペラをみんなで創りあげていこうと盛り上げてくださり、感謝の極みでした。その他向山ダンスア



トアカデミーのダンサーの皆様、舞台の背景すべてを担当いただいたイラストレーターの小平陽子さん、衣装のマクナリーみどりさん、生地を提供してくださった小澤インテリアさん、大道具・小道具の製作にかかわってくださった皆様、音響と舞台監督を務めてくださったJUKUの上條さんなど、多くの皆さんのお力を借りました。



地域の方たち主役となりオペラを創りあげて、それが出演者・観客ともども楽しみになっているという意味では、とても喜びで、なくてはならないことをしていると感じています。さらに「オペラを楽しむ会」の公演を楽しみに待って下さっている方が増えますよう、試行錯誤を繰り返して目的に向かって邁進していく覚悟です。どうか、末永く私どもの活動が続きますようにご協力のほどよろしくお願いいたします。(大黒著)



掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しください

・ ・ ・ 檀信徒護持会新年総会 ・ ・ ・

1月20日(土) 4時より全久院で開催します。全久院の催しに参加していただいている方々など、より多くの方に参加していただきたく企画しています。茶道部の皆さまの協力により、3時40分より茶室にて薄茶を差し上げます。お正月の新たまった飾りつけの中、日常とは少し違った雰囲気味わい、檀家の皆様にも堅苦しくなくお茶に触れていただこうと思います。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告など承認いただきます。4時30分より本堂にてお参り、その後座禅会の皆様と5分間座禅、4時50分より懇親会。懇親会ではご詠歌の皆さんと観音講の方によるご詠歌の奉詠を数曲お願いします。また南こうせつさん作詞作曲の「新曲」が披露できるかもしれません。次に観音講や歌の会「花かんざし」の皆さんで歌っている唱歌を何曲か、みなさんにも歌詞を配り合唱していただこうと思います。一年の初めを皆さま心豊かに過ごし、良い年であるよう祈念したいと思います。総代様のお顔を覚えていただいたり、人柄に触れていただき、全久院のことをいろいろ語り合いたく思います。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は1月15日(月)までに電話でご連絡ください。

．．． 座禅会 ．．．

今年度の座禅会の予定は

2月17日(土)・3月17日(土)・4月21日(土)・5月19日(土)・6月16日(土)・7月21日(土)・9月15日(土) 以上が上半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。

．．． ご詠歌会 ．．．

2月14日(水)・3月14日(水)・4月11日(水)2時より・5月23日(水)・6月13日(水)・7月11日(水)・9月26日(水)

午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時30分からご詠歌、11時から大黒の指導で唱歌の合唱、11時30分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会「花かんざし」 ．．．

1月31日(水)・2月7日(水)・2月21日(水)・3月7日(水)・3月21日(水)・4月4日(水)・4月18日(水)・5月2日(水)・5月16日(水)・5月30日(水)・6月6日(水)・6月20日(水)・7月4日(水)・7月18日(水)・9月5日(水) 大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． ホームページを開設しました ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまい見たことがない。若い人にはコンピューターのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作りました。それをそのままホームページように掲載することが出来るとのことで、コンピューター管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して開設していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて行きたいと思います。ぜひ一度開いて見てください。